

第 35 回 CASCO 総会 報告書

報告者:(一財)日本規格協会 中川 梓

日時:2021 年 1 月 28 日~29 日(金)20:00~23:00(ジュネーブ時間 12:00-15:00)

場所:ウェブ会議

参加者:約 140 名

概要:

●議題1 開会,

開会に先立ち、本総会の決議事項は案とし、総会后 1 週間の投票期間(2 月 3 日まで)を設け、正式に決議を行うことが説明された。総会中は口頭あるいは chat を利用して質問をすることができ、時間の関係上、回答は後日になる可能性もあることが説明された。

CASCO 議長 Mr. Reinaldo Figueiredo が開会の挨拶。CASCO 総会としては初めてのバーチャル会議としての開催であること、バーチャル会議のため時間の制約があり議題を絞って進めることなどが説明された。また、対面会議ができない状態ではあるが、CASCO 関連規格の開発はメンバーの尽力で問題無く継続していることや、メンバー間の情報交換や活動への参加を促進させたい等が述べられた。

続いて ISO 事務総長 Mr. Sergio Mujica が登壇し、ISO Strategy 2030 の説明、2020 年の理事会及び総会の報告 (Strategy 2030 の承認、COVID-19 に対応してメンバーの状況、リスクマネジメント、Regional Engagement Policy 承認、Foresight Framework に基づきパイロットを実施すること、SMART(機械可読規格)検討、等)。

また、Mr. Sean MacCurtain が CASCO 事務局長を 2020 年末で退任したことを受け、長年にわたる CASCO 及び COPOLCO への多大な貢献、メンバーやステークホルダーとの連携、IAF/ILAC との協働に讃辞/謝辞を述べた。

会場からは、ISO Strategy 2030 に関する質問、COVID-19 の影響に関する質問、Foresight Framework の詳細を求めるコメントがあった。

ISO Strategy 2030 と SDG の関連—SDG に沿ったものであるが直接的にリンクしたゴールを設定しているわけではないとの回答。

COVID-19 の影響—ISO Strategy 2030 策定への影響(考慮はしたが直接的に COVID-19 にリンクした内容ではないとの回答。規格開発への影響(2020/2021 は challenging だが継続して規格を提供していくとの回答)。

Foresight Framework のプロセスやパイロットの説明あり。

●議題2 CASCO 議長報告

詳細は資料に譲り、いくつかのトピックについて述べた。COVID-19 により全会合がバーチャルで行われているが、多数の参加を得、CASCO として effective, efficient, flexible, reliable に活動できていることに感謝、各国 NMC やリエゾン団体からの(ボランティアでの)参加者によって達成された業務への深謝、初代

CASCO 議長を務めた Mario Witter の逝去に対し哀悼の意、等。
参加者からはチャットで激励/支持のコメントが寄せられた。

●議題 3 CASCO strategy 2021

前事務局長が、Priority Achievements (2016–2020)、Transition Strategy in 2021、Priority Achievements (2022 年以降)の 3 つについて資料に沿って説明。

●議題 4 Strategic review of CASCO structure

議長より概略の説明。CASCO の構造は 2007/2008 年に実施された strategic review で現在の CPC/STAR/TIG の構成となったこと、2020 年 5 月に CPC で P メンバーから構成される Task Group を設置し議論を開始したこと、第 1 回会合を 2020 年 12 月に行ったこと、等。

その後、議長より参加者に対し以下の問いかけがされた。総会中にコメントしてもよく、後日連絡をしてもよいとのこと。

- How CPC streamline its activities to enhance its efficiency?
- How can CASCO become more agile to respond demands, implement the necessary technology to meet future challenge?
- What lessons have we learned, especially from COVID-19? How can these be applied to improve CASCO operations?
- How can CASCO explore the development of new deliverables to respond faster to new demands?

●議題 5 34 回総会決議事項のフォローアップ

事務局長が資料に沿って説明。

●議題 6 IEC CAB

IEC/CAB 議長、Mr. Shawn Paulsen より IEC 及び IEC/CAB の活動、IEC 適合性評価システム、デジタル化の状況、COVID-19 下での運用などが紹介された。質問があれば別途受付し後ほど回答するとのこと。

●議題 7 Joint Strategic Group IAF-ILAC-ISO

IAF 議長より報告 (JSG の議長は 1 年毎の持ち回り)。
報告内容は、CPC 会合と同じ。特に質疑なし。

●議題 8 Regional engagement sessions 報告

議長より報告。CASCO と各地域の NMC との双方向コミュニケーションにより CASCO への参加を促進する

ことを目的として、Regional engagement sessions を実施した。8 地域/19 サブ地域に 142 の P/O メンバーがいるが、8 地域で計 9 回のセッションを行い、44 メンバーから延べ 160 名が参加した。CASCO への参加、WG のコンビナ、リモート会議の長所/短所の 3 点につきコメントをもらい、具体的に 2 つの取組みにつながった(WG コンビナになるためのメンタープログラム、WG の審議結果をコンビナが説明するセッション)。会場からは、メンタープログラムの詳細が質問され、参加者は将来コンビナになる事が求められること、現在はパイロットであるが、継続していくつもりであること等の説明があった。コンビナによる WG の説明セッションについても、参加者の範囲に関する質問や(NMC とのコミュニケーションを目的とするがリエゾンの参加も可)、審議結果だけではなく会合の前にもセッションを行うか情報提供をしてほしいとの要望があった。

●議題 9 CASCO 事務局報告

前事務局長(Mr. Sean MacCurtain)より報告。主な内容は以下。

- CASCO メンバーは 142 で、P メンバー105、メンバー37。99 メンバーが発展途上国。23 の国際団体が A リエゾン。
- New Rights Programme (corresponding/subscriber メンバーが規格開発に参加できる。参加に際して財的支援。開発途上国からの参加を促すための制度)を 15 メンバーが活用。
- 現在、6 つの WG、1 つの JWG(TC212 との JWG; ISO 15189 改定)が活動中
- 2020 年には、Proc33 と ISO/IEC 17000 を改定発行
- COVID-19 の影響で 12 の会議をバーチャルで行い、2 会議はキャンセル(影響小さいため)。総会は延期。
- WG 会議参加者は平均で 30 名(2018/2019 年はそれぞれ 13/19 名)。開発途上国からの参加の割合は 40%(2019 年 20%)
- clarification 発行 7 件(17021-1 に 2 件、17025 に 2 件、17065 に 3 件)
- その他、地域毎の対話セッション、ISO サーベイ、CASCO ニュースレターの発行、等

●議題 10 CPC 報告

議長より報告。future of CASCO toolbox については TG 主査(Ms. Cynthia Woodley)が報告。詳細は CPC 報告参照。

●議題 11 STAR 報告

主査(Ms.Stefanie Vehring)より報告。

Delivering Supply Chain Confidence と Challenges & best practices COVID-19 の 2 つを公表し、2020 年は実り多い年であったこと、これらをより普及させるにはどうするかが課題であること、次のテーマは sustainability と circular economy であること、等。詳細は STAR 報告参照。

●議題 12 TIG 報告

主査より報告。TIG 報告参照。

参加者からは、JTC1などで問題が続いているのは、ガバナンスの問題(TCの規格開発が Directives に従ってきちんとコントロールされていない)と CASCO 側のリソース不足の 2 点によるものだというコメントあり。

●議題 13 バーチャル会議に対するフィードバック

Ms. Anne Marie Warris が、これまでに行ったバーチャル会議のフィードバックの分析結果を報告。

開発途上国からの参加増加が著しい(今回の総会参加数も増えている)。deliverable の開発には影響はみとめられていない。COVID-19 の前にもハイブリッドミーティングは行っていたが、1 日 8 時間のリモート参加は困難、主査/事務局もリモート参加者への配慮で労力が増した、しかし旅行困難な参加者には歓迎された。これまで実施したバーチャル会議でサーベイを行ったところ、62%の参加者がバーチャル会議をよかった(19%が対面会議よりも良かった、43%が同等によかった)とした、等。ハイブリッド会議を行う上で、会合のタイプや、参加者がどんな形を希望するか、対面の人数が多いか等々、考慮すべきことが様々あるだろうと、報告を締めくくった。

参加者からは、他の TC でも同様の議論をしているので情報交換すべきというコメントあり。

参加者からはそれぞれの経験から、種々のコメントがあった。特定の 7-8 名が話していて参加できなかった、chat も使わせてもらえなかった、非英語圏の人間にはハードルが高い等。さらに、開発途上国の参加が増えたのは彼らの財政面では結構なことだが、バーチャル参加をしてもネットアクセスが悪く、テレワークで自宅から携帯を使ってアクセスすることもあり、すぐに落ちる例が多いとのコメントもあった。また、アジア圏はいつも夜の時間になり配慮してくれないのかとのコメントもあり。

●議題 14 閉会

閉会に先立ち、議長が、レポートを提出した WG 主査、リエゾン団体に謝辞を述べた。

また、Mr. Sean MacCurtain が退任の挨拶をし、CASCO を代表して Ms. Cynthia Woodley がこれまでの貢献への謝辞とお別れの言葉を述べた。

以上